



JASWHS 公益社団法人 日本医療ソーシャルワーカー協会

Japanese Association of Social Workers in Health Services

令和6年1月11日 第13巻(第3号)

発行：東京都新宿区住吉町8-20 四谷チンゴビル2F

災害支援チーム TEL (03)3351-5038

FAX (03)5366-1058

Mail: dsstsw@jaswhs.or.jp

もくじ

巻頭言

2024年 新しい年を迎えて

1. グループ活動報告 — 11月・12月 開催 —
2. 石巻だより — I 石巻出身写真家・高砂淳二さん —
— II ダイズ石巻の活動 —
3. フォーラム開催のお知らせ
4. 災害支援チームからのお知らせ
5. 災害支援ニュース発行のお知らせ

編集後記

◇ 巻頭言



2024年 新しい年を迎えて

石巻災害支援チーム 現地責任者 福井 康江

能登半島・北陸震災の被害に遭われた皆様、ご家族の皆様、心よりお見舞い申し上げます。多くの方々にとって一番穏やかな日常であったであろう一年の始まりである元日に、また新型コロナウイルスの流行後に、久しぶりにやっと帰郷されていた方もおられたことを聞くに辺り、自然災害の恐ろしさがあらためて身に染みだ。その中で「生きている事の尊さ忘れてはならない。」との言葉を聴き、この言葉を今年の銘としたい。

さて、東日本大震災からまる 13 年が経つこの春、いよいよ災害支援活動事業が終結となる。昨年は、唯々気持ちが急ぐばかりの日々を送っており、ここに来て思っていたことが十分に進められなかったように感じていた。身の丈に合うこと、分相応のあり様を痛感した 1 年であった。

石巻市では昨年 11 月に、東日本大震災の「復興事業完結記念イベント」を市の複合文化施設（マルホンまきあーとテラス）で開いた。支援を受けた国や県、全国の自治体関係者らに感謝を伝えることと、新たなまちづくりへ向けての決意を改めて示すことがイベントの趣旨であった。新聞によると、式典には各省庁や企業の関係者、全国からの元応援職員、市民ら計約 600 人が出席したとのことであった。また同時に、「完結」に市民から疑問の声も上がったとの記載もあり、復興の終了とは、何時なのか、何も持って示されるのかとあらためて考えさせられた。また、当協会の事業に置き換え“復興”に関わる支援の終結を考えた時、被災者支援活動はどのような位置づけのものとなったのか、役割を果たせたのか、住民の皆さんはどのような思いで受け止めているのか、被災地支援に入った何千、何万という方々は、どのような思いを抱きながらこの地を去っていったのか、そんな思いが頭を駆け巡った。

最近、「寂しくなるな。」との言葉を掛けられることが増えた。ありがたい事ではあるが、同時に申し訳なさも感じている。現場に残した足跡を、どうか力強く踏みしめて欲しいと、いよいよしつかりと伝える時となった。

1. 夢と希望の会・グループ活動報告

— 11月・12月 開催 —

石巻災害支援チーム 現地担当 岩崎 隼生

11月は雲雀野埠頭に寄港した豪華客船『MSC ベリッシマ』を見学しました。初めて見る豪華客船にみな感激し、あまりの大きさに驚きの表情を浮かべていました。船を背に記念撮影を撮り、また一つ思い出を作ることが出来ました。様々な国々からの乗客者も多く、石巻市内は外国人の方々が賑わっており、各観光スポットを楽しんでおられました。



〔石巻港に寄港した 豪華客船『MSC ベリッシマ号』〕

続いて場所を移して、「みやぎ東日本大震災津波伝承館」を見学しました。津波伝承館へ行くことが震災の記憶を思い出してしまうのではないかと心配していましたが、メンバーどうして震災時の話をしており、淡々と見学している姿が見られました。その後、「こころの森ガーデンカフェ」にて昼食を取り、石巻焼きそば・ナポリタン・ピザなど種類も豊富でデザートにはジャラートを食べて、みな満足でした。最後は石巻南浜津波復興記念公園内にある「がんばろう！石巻」の看板の前で集合写真を撮り、11月の活動は終了しました。



12月は、「かわまち交流センター」をお借りしてクリスマス会&忘年会を開催しました。石巻市地域おこし協力隊の「ふあん★ガール」さんをお呼びしてお笑いライブを行い、石巻市ならではの魅力をネタにしており、メンバーの方達と一緒にたくさん笑い、大いに楽しみました。



「ふあん★ガール」さん



昼食では手作りのシチューと、オードブルを並べて少し豪華な食事を楽しみました。メンバーからも「みんなで食事するとおいしく感じる!」「みんなで食べるのはいいね!」との声も聞かれ、普段独居で生活しているからこそ誰かと一緒に食事する楽しさ、人との繋がりから来る安心感などを分かち合えるのだと思いました。他にもクリスマスツリー作り、ビンゴ大会、今年度の活動の振り返りをスライドショーにして観賞会をしました。12月の会は盛沢山でしたがメンバーの方達に楽しく喜んでもらえ、準備して行った甲斐があったと感じました。

グループ活動も残り3回となり、寂しくもありますがメンバーの方達が楽しんでもらえるよう最後まで楽しく活動していければと思います。

∞ ∞

2. 石巻だより

∞ ∞

石巻災害支援チーム 現地担当 高橋 としみ

~~~~~

### I 石巻出身写真家・高砂淳二さん

『地球と出会う旅』

~~~~~


石巻出身の自然写真家・高砂淳二さんの写真展が12月2日より「マルホンまきあーとテラス」にて開幕されました。高砂さんは「Heavenly Flamingos」の写真でイギリス・ロンドン自然史博物館主催自然芸術部門の最優秀賞を受賞しました。日本人では初めての受賞です。

(受賞作品 Heavenly Flamingos)



実は私も写真が趣味で『写友会』という会に所属しています。12月1日よりマキアートで写真展を開催していきまして、高砂さんの作品が博物館のコーナーに展示されるのと同時開催でした。2日は高砂さんの写真展開催にあたりテープカット等の行事があり、高砂さん本人も来石していました。同じ写真展とはいいいながらもレベルの違いすぎには恥ずかしい限りでした。でもおかげで高砂さんに写真を見ていただく事になり会員一同大変な喜びでした。私は写真集にサインをいただいたり、一緒に写真に収まっていたりしました。震災後、有名な写真家の方々が石巻の行事に参加してくださったり、写真の講習会などの開催がありました。その折も高砂さんもいらしていました。今回は18年ぶりの故郷での個展。会期は来年2月25日までです。機会がありましたら、是非ご覧いただきたいと思います。

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

Ⅱ ダイズ石巻の活動

～ 次世代への記憶継承のかたちー石巻の若手の取組から ～

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

私の地元の地区で標記の開催がある事を新聞で知り、参加してみました。

「ダイズ」は、DAIS-ISHINOMAKI は(Diversity Art Interactive Studio)の略称です。多様な人たちが交わるきっかけとなる“場”を中心として『循環する多様性を問い続ける』そうです。

その“場”となるよう、住む人のいなくなった家を借りて活動をしています。元々その家は、畑や果樹をいっぱい作っていた家なので畑ごと借りている様子で、野菜を作ったり、果物も収穫したりしています。家屋を少し修繕したりして、ランドセル型アート作品を展示したり、活動の様子をパネルに貼っていました。

「ダイズ」でのイベントの開催案内のサブタイトルに『市民の手で震災の生きた記憶を伝える資料館準備室(仮)』とありました。今回は食事会&座談会。『次世代への記憶継承』をテーマに石巻で記憶の継承に取り組む若手の皆さんを招き、柿の収穫、食事会、作品鑑賞、対話などをおこなっていました。私は午後の部の座談会に参加しました。一般社団法人 Smart Supply Vision の清水葉月さんは語り部をしていて、「震災時に幼かった子供たちがあの頃、話せなかったが成人して何かを語りたいと思っている。語り部同士で悩みを共有している。」ということをお話されました。石巻アートプロジェクト実行委員会の志村春海さんは震災は被災した人のものだけではない、と語られ、そのことには私も共感しました。確かに家族を亡くされた方、家を流されてすべて失った方、そうした方々は大変な思いをしたはずですが、しかし、同じようにここ被災地で生きた人たちも皆違いはあるもののそれぞれに、大変な思いをしてきました。そして、この震災はみな一人一人それぞれに記憶に残り続けるのだと思います。

一般的に震災の伝承館には、震災を象徴する重要なモノや、生き延びた人の貴重な証言を長期的に保存する役割があります。一方「ダイズ」は震災をその日にここで体験した人、そうでない人などの多様な人々が交わり、言語だけでなく、非言語の芸術を通して記憶を共有したいと考えています。そして、生きた記録を伝える資料館が必ずできるかは分からないが、その探求をしたいと活動をしています。

〔写真：ちばさんの家を映した作品の一部〕



この日座談会で登壇した彫刻家のちばさんは沿岸部の祖母の家を最近になって片付け始めてい

るそうで、その様子などを短編のドキュメンタリー映画にしたものを座談会で鑑賞しました。映画は、筆筒の衣服、津波の堆積物、祖母の残したものの、家が積み重ねてきた時間を映し出し、静かに心に迫るものがありとても感銘を受けました。

余談ですが、この記事を書く為に新聞を見ていると、このちばさんの実家を撮ったドキュメンタリーが映画祭にノミネートされたという記事を発見し驚きました。この映画に関わった中心の方々には美術大を卒業した方が多く、色々な形でアート・表現をしている感じがしました。今後の皆さんの活動をととても楽しみにしています。

∞ ∞

3. フォーラム開催のお知らせ

∞ ∞

宮城県・石巻市にて開催

「災害時ソーシャルワークフォーラム」のご案内

∞ ∞

当協会では、2011年（平成23年）3月11日に発生した東日本大震災後、同年4月より宮城県石巻市で被災された方々への支援を開始し、7月からは石巻市から事業委託を受け、現地拠点を設け専任職員による支援を行って参りましたが、この事業が今年度末に終わることとなりました。

この度、これまでの活動を振り返ると共に課題を検討し、今後の防災や災害支援への視点を涵養するべく、下記の通り災害時ソーシャルワークフォーラムを開催致します。

多くの関係者及び、関心を持たれている皆様へのご参加をお願い申し上げます。

日時：2024（令和6）年1月28日（日）10時～16時

会場：石巻赤十字病院 講堂

〒986-8522 宮城県石巻市蛇田字西道下 71 番地

（JR石巻駅より路線バスまたはタクシーで約15分）

方法：現地参加または後日オンデマンド視聴

いずれも参加無料

内容：講演、現地活動の報告等

（復興庁、石巻市支援関連団体）

詳細は当協会ホームページ、参加案内チラシをご確認ください。

お申込：下記URLまたはQRコードからお申込ください。

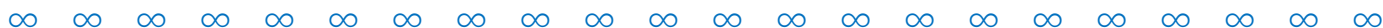
<https://forms.gle/JjSC4zNfWD3qRQaF7>



お問い合わせ先

公益社団法人日本医療ソーシャルワーカー協会 担 当：山崎・金子

電 話： 03-5366-1057 メール：jaswhc@d3.dion.ne.jp



4. 災害支援チームからのお知らせ

【1. 書籍販売】

- 『東日本大震災 医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅠ』
- 『東日本大震災 医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅡ』
- 『東日本大震災 医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅢ』
- 『東日本大震災 医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅣ』

の販売を行っています！



発災から 2011 年 9 月 30 日までの石巻・仙台・大槌町・事務所・災害対策本部の活動の記録を『バトンⅠ』に、2011 年 10 月から 2012 年 12 月までの災害対策本部、石巻市での仮設住宅支援・在宅被災世帯支援・市民活動支援、現地 SW との協働の記録を『バトンⅡ』に、2013 年 1 月から 2014 年 3 月までの災害支援チーム、石巻市での仮設住宅支援・在宅被災世帯支援・市民活動支援、虐待防止センターでの支援・石巻市社会福祉協議会での支援、現地 SW との協働の記録を『バトンⅢ』にまとめました。そして 2017 年 5 月、2014 年 4 月から 2016 年 3 月までの災害支援チーム、石巻市での復興公営住宅への入居支援・仮設住宅被災者自立生活支援・グループワーク支援・市民活動支援の記録を『バトンⅣ』にまとめました。

尚、売上げの全額を皆様からの寄付として、本活動の資金にあてさせていただきます。

※ご注文は注文用紙で承ります。（注文用紙はホームページからダウンロードできます）

お知らせ欄から注文用紙表示

https://www.jaswhs.or.jp/about/publish_index.php

注文用紙表示

https://www.jaswhs.or.jp/news/news_detail.php?@DB_ID@=1393

∞ ∞

5. 災害支援ニュース発行のお知らせ

.....

次回 第13巻 (第4号) 最終号
令和5年3月28日 発行予定

.....

∞ ∞

◇ 編集後記

.....

石巻災害支援チーム 事務担当 金子 小夜子

.....

2024年3月末で当協会の石巻市での支援活動は終了します。

支援活動を担うために現地職員となったソーシャルワーカー、そして日本全国からボランティアとして馳せ参じた300名を超えた人々、このように多くの方々の協力のもとに続けてきました。そしてこの長期にわたる支援活動もついに最終コーナーを回りました。

同時にこの災害支援ニュースも、その時々の職員・ボランティアの方々に復興状況を記事や写真等で投稿していただき、その時々の担当が編集・発行してきましたが、こちらも最終コーナーを回りました。

残り少ない時間をも石巻市復興に役立てていきたいとの職員の思いを伝えたいと思います。

∞ ∞

2024年を迎えたその日、石川県能登地方で激甚災害が発生してしまいました。

2024年1月1日 16時10分、マグニチュード 7.6、最大震度 7

「令和6年能登半島地震」

被災されたみなさまにお見舞い申し上げます。

∞ ∞